

## 平成29年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input type="checkbox"/> 共同研究推進 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input checked="" type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	<p>音楽演奏における人間形成の重要要素の解析と技術的・身体的進化の検証</p> <p>～吹奏楽を通して</p>
報告者氏名・所属・職名	渡部謙一・岩見沢校音楽文化専攻・准教授
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	同上
<b>研究内容及び成果の概要</b>	
<p>本研究は、現代的で先進的な吹奏楽作品を演奏させる事によって、いかに若い世代が技術的もしくは身体的な成長を遂げていくのかという事を解析するものである。</p> <p>この観点を研究の主眼として、本学岩見沢校音楽文化専攻管弦打楽器専攻生によって組織された「北海道教育大学スーパーウインズ」による三つの企画演奏会を行なった。平成29年5月には航空自衛隊北部航空音楽隊と、7月には東京藝術大学ウィンドオーケストラとのジョイントコンサート、そして11月にはスーパーウインズ単独による演奏会（創立10周年記念）がそれである。これらの演奏会において、熟慮の上選択したレパートリーを学生たちに演奏することで、様々な変化及び変化を検証するためのヒントを得ることが出来た。</p> <p>この研究では、音楽演奏における技術的および意識的な進歩進化が、一般的に言われる「フィーリング的な」表現範疇を超えないものであることを鑑み、いかに「目に見えるように」他者に感じさせることができるかという方法論の研究でもある。今回の一つの結論として、「いかに空気の変化を感じ取るか」「いかに空気の変化を自ら起こし他者に感じさせるか」ということが音楽演奏における重要性の本質であることをきちんと、物理的・具体的論証を持って解く必要があることを再認識した。基本的にいって「音」とは空気の振動であり、その空気震動の周波数の違いが人間の心身に大きな影響を及ぼすということと、人間にとっての音楽の良し悪し、作品の良し悪しは、心身の働きを助長する「倍音」の配列やバランスによって見極められるものであることもわかった。このことが、演奏することによる人間の技術的・心身発達の最も重要なキーポイントであることを、これからも追及し、また研究を深化させていきたいと考えている。</p>	
<b>成果の公表の状況</b>	
<p>【著書】 モーリス・ラヴェル作曲／渡部謙一編曲「道化師の朝の歌」（NEXSUSS出版、平成30年8月予定）</p> <p>北海道教育大学スーパーウインズ ストリーミング配信（ナクソス・ミュージック・ライブラリー平成30年9月予定）</p>	

【学术论文】当初予定していた「芸術スポーツ文化研究4」が刊行されないことになったため、その他の学内紀要に  
投稿予定(平成30年度内に脱稿)

教育現場で活用可能な分野・教材等

リヒャルト・シュトラウス作曲田村文夫編曲：交響詩「アラベラ」(ブレーン出版社)、ベートーヴェン作曲  
南聡編曲「大フーガ」(アカデミアミュージック)

配布又はダウン  
ロード可能な資  
料

NEXUSS出版 <https://www.nexuss.net/>

ナクソス・ミュージック・ライブラリー <http://ml.naxos.jp/>

問合わせ先

代表者：渡部謙一

電 話：0126-32-0391

FAX : 同上

mail : watanabe.kenichi@i.hokkyodai.ac.jp